



きて幸
せな子
です。ね
先生は、
『学問
が仕上
がるま
で、が
んばっ
てもら
います。』
と、言
われた
わね。母の私も、はた織りに精を
出しますよ。」

お母さんのはた織りは、薄いのに
つやがありました。織り柄も美しい
ので、人気がありました。しかし、
一反（着物一枚分）の布を織り上げ
るのに、数か月かかることもありま
した。

⑤ そんなある日のことです。

孟子はお母さんが恋しくなり、会
いたくて会いたくて、しんぼうでき
なくなりました。

孟子「お母さんに会いたいなあ。今
頃、何をしておられるのだろう。
お母さんに会いたい。今日は学問
所が休みだぞ。先生にはないしょ
で、そつと出かけよう。お母さん
に一目会って、戻ればいいのだ。」
孟子は、だれにも言わずに、学問
所を抜け出すことにしました。

孟子「よし、だれも見っていないぞ。
今だ、行くぞ。」



また走りました。とうとう、孟子は、
なつかしいわが家に着きました。

⑥ そつと、裏口から家の中に入り
ました。

孟子「あつ、お母さんだ。」

お母さんの後ろ姿が見えました。
美しい布を一心に織っていました。
孟子はうれしくなって、お母さんに
声をかけました。

お母さん「えつ、まあ、私のかわい
い息子ですか。間違えましたよ。

すつかり大きくなったこと。背丈
がずいぶん伸びたのね。急なこと
で、驚きましたよ。」

孟子「お母さん、会いたかったです。」

何年ぶりに帰ってきたわが子は、
見違えるほど大きくなっていました。
お母さんも、孟子の目からも、ハラ

孟子
は、一
心に駆
け出し
ました。
しかし、
道のり
は長く、
一息つ
いては
走り、
一息つ
いては、

ハラと涙がこぼれ落ちました。
お母さん「ところで、お前は学問が
進んで、先生のお許しが出たので
すか。」

お母さんの言葉を聞いて、孟子は
思わずうつぶさしました。そして、口
ごもりながら、小さな声で言いまし
た。

孟子「いいえ。実は先生にはないしょ
で、やって来ました。私は、お母
さんに会いたくて、会いたくてた
まらなくなつたのです。だから、
来ました。」



がりました。

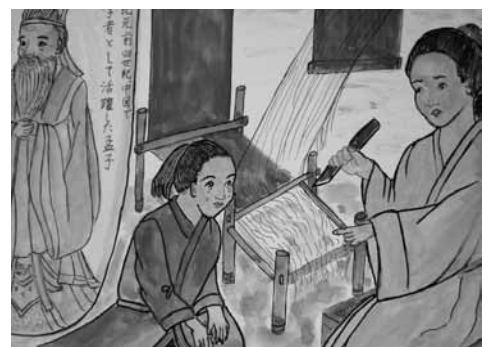
お母さ
ん

「えつ、
何です
つて。」

孟子
の言葉
を聞いて
お母
さんは、
驚いて
立ち上

⑦ 突然、お母さんははた織り機の
近くにあって糸切り用の小刀を手に
取ると、はた織り機の美しい布を切
り裂きました。驚いた孟子は、止め
ようとして駆け寄りました。

孟子「お母さん、何ということな
さるのですか。心をこめて織つ



ておら
れる大
切な布
を。」
お母さ
ん「よ
くお聞
き。お
前は、
学問の
途中で、
『母に会
いたい』というだけの理由で、先
生のお許しもなく帰ってきたので
すよ。」

お母さんの言葉を聞いた孟子は、
自分がしたことのおやまちに、よう
やく気づきました。

孟子「お母さん分かりました。私は、
自分の学問を仕上げることが、ど
んなに大切かが、よく分かりまし
た。今すぐ学問所に戻ります。」

このことがあってから、孟子は
一心に学問に励み、ぐんぐん力を
付けました。学問を深めた孟子は、
二千三百年以上過ぎた今も、その名
を世界中に知られるような、立派な
学者になりました。（おしまい）

▼制作・発行 藤樹紙芝居制作委員会
▼脚本・挿絵 高島藤樹会教材委員会
▼制作委員 足立清勝・飯田典子・
石黒紀代子・北川暢子・清川貞治・
高谷美智子・山本義雄（五十音順）